

## お正月の縁起物—赤い実をつける植物—

飯能市立博物館 学芸職員 岸 裕介



写真① マンリョウ



写真② センリョウ



写真③ ヤブコウジ



写真④ ナンテン

冬でも生命力あふれる葉の緑と鮮やかな赤い実のコントラストが目を引き植物は昔からお正月の縁起物とされてきました。今回は天覧山・多峯主山で見ることのできる縁起のよい赤い実の植物を紹介します。

まずはマンリョウ。漢字で書くと「万両」。一万両のお金に匹敵するかどうかはわかりませんが、商売繁盛しそうな縁起のよい名前ですね。葉のふちが力こぶみたいに円くギザギザしているのが特徴です。マンリョウの次はセンリョウ。漢字で書くと「千両」。こちらも同じく金運アップが望めそうです。被子植物の中では原始的な特徴を持つ植物と言われています。もっと地面近くに目を凝らしてみましょう。草丈の葉の陰にのぞく赤い実はヤブコウジです。落語「寿限無」にでてくる縁起を担いだやたらと長い名前の一節「やぶらこうじのぶらこうじ」とはこの植物のこととされています。またヤブコウジは別名を「十両」ともいいます。やはり儲かりそうな名前ですね。ちなみに天覧山周辺では見当たりませんが「百両」はカラタチバナ、「一両」はアルドオシという赤い実の植物の別名です。一十百千万と数の位がそろいました。つける赤い実の数が多いいものほど、位が大きい名前をもらっているようです。

お金の縁起担ぎばかりでしたので別の縁起を担ぎたい方には、ナンテンはいかがでしょうか。「難を転じる」につながるとして昔から厄除けとして家の戸口に植えられたそうです。天覧山に生えているのはそれらの種子が運ばれて根付いたものと思われる。

これらの植物の実がこんなに赤いには理由があります。おいしい実を目立たせて鳥に食べてもらい、遠くへ運んでもらおうという作戦です。鳥は視力が鋭く、特に赤い色には敏感です。実は、鳥が食べやすいよう一口サイズで丸くてなめらか。鳥の嗅覚は鈍いので匂いは不要。熟しても地面に落ちず木の枝について食べられるのを待つ、鳥専用の実なのです。実を鳥が食べると硬いタネは消化されずにそのまま排出されます。フンという肥料付きで。

しかし、今回紹介した植物の実は、ほんとはあまりおいしくないようで、鳥たちはあまり食べません。ナンテンにいたっては若干の有毒成分があるそうです。それでも真冬になるとほかの食べ物が乏しくなって、これらの赤い実をしかたなく？食べに来ます。でもあまりおいしくないの、ちょっとついでには飛び去ってしまいます。植物の狙いはそこにあります。おいしいとその場でパクパク食

べられて消化の早い鳥たちは移動しないでタネを排出してしまうので、タネを遠くへ運んでもらうためにわざとちょっとずつ食べさせているのです。